

◇ 愛鷹山・黒岳・檜洞丸

2014年12月4～7日（木～日）

岡本（記）・鳴原

今回は、11月に悪天候で行けなかった檜洞丸のリベンジと、鳴原さんの200・300名山巡りを兼ね、富士山を南・北・東から眺めることにした。

4日午後9時過ぎに大和高田を出発、翌午前2時過ぎに愛鷹山北麓の十里木高原のバス停に着く。トイレのある駐車場にテントを張り、少し飲んで仮眠、程なく寒さで目が覚める。昨日来の寒波と900m近くの標高が、外の空気を凍てさせる。少し光を感じ起きると、もう6時半近くになっている。慌てて外に出ると朝焼けの富士山が目の前に聳える。



(十里木高原から朝焼けの富士山)

朝食を片付け、テントを撤収すると既に7時半を過ぎている。まずは愛鷹山最高峰の越前岳を目指す。天気は最高、ここからの富士の姿は本当に綺麗だ。新幹線や東名高速からも時々富士山は見えるが、近い距離からの富士山をじっくり眺めるのは本当に久しぶりだ。



(越前岳中腹からの富士山)

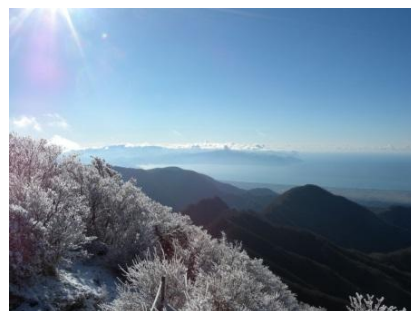
登山客は殆どいない、が、よく登られているようで、道に迷う心配はない。標高差も630m程しか無く、富士山の眺めも素晴らしく、爽快な気分だ。登山口から道は凍っていたが、頂上に近づくとその上に少し雪が積もり、美しい樹氷も楽しめる。頂上に着くと駿河湾や伊豆半島の雄大な景色も素晴らしい。



(越前岳山頂)



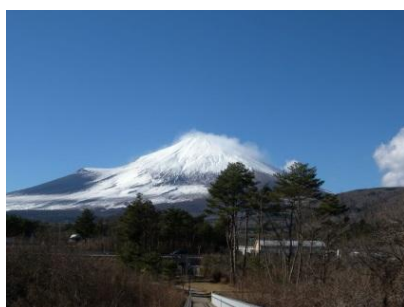
(越前岳山頂からの富士山)



(越前岳山頂からの駿河湾)

愛鷹山のもう一つのピーク、位牌山も検討したが、頂上にいた登山者から景色は全く見えないと聞くと、安直虫がうずうずする。とりあえず下り始める、と、徐々に雲が上がり富士山も見えなくなってくる。これ幸いに、とりあえず明日の登山口探索とテント場を探すことにした。

富士山東麓を須走、山中湖、河口湖、と走る。が、爺2人では場違いの感じだ。少し腹も減り、名物のほうとう鍋を食べる。思った以上のボリュームで腹一杯になる。黒岳の登山口を確認し、少し戻って道の駅「富士吉田」を根城と決める。まだ少し明るい、駐車場の片隅にテントを張り、ほうとうがまだ残ってい



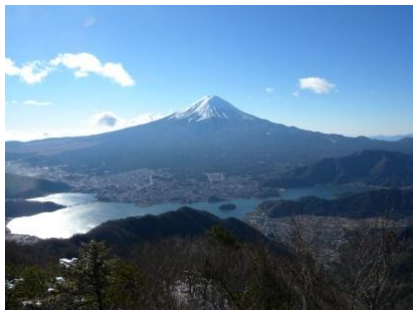
(須走からの富士山)



(河口湖畔からの富士山)

る胃に、すき焼きと酒を流し込む。ふっと目が覚めると、隣でテントを二つ張り宴会だ。やっと静まったら、今度は大型トラックが駐まり、エンジンを吹かす。寝むれないので外に出ると、テント全部で8張り、乗用車も30～40台は駐まっている。

目が覚めると6時を過ぎた。急いで食事をし、登山口に着いた頃はもう8時前だ。早速、旧御坂峠トンネル入口付近から板取沢を登ることにした。目標は黒岳+御坂山だ。暫く薄暗い沢をダラダラ登り、急斜面を登り切ると河口湖から直接登るコースに出会う。この辺りから、河口湖と富士山が見えてくる。滑り易い、急な登りを30分余り行くと急に景色が開ける。黒岳手前の展望台と言われる場所だ。正面に河口湖と富士山が綺麗に見える。



(黒岳展望台からの富士山)



(御坂山地最高峰黒岳)

どうやらこのコースで木々が邪魔にならない場所はこの辺りだけらしい。十分な休憩を取り黒岳山頂へ向かうと、直ぐに山頂に着き、そのまま御坂峠へ向かう。完全に落葉した檜やブナの樹林帯の尾根コースで、足下には少し雪が積もっている。御坂峠まではこのようなコースが続くが、所々綺麗な景色もあり、中々雰囲気のあるコースだ。旧御坂峠に着くが、またぐうたら虫が蠢き、御坂山へは行かず、昔の峠道を三ツ峠入口まで下りる。まだ時間に余裕があるが、ここから一気に西丹沢まで車で走る。

西丹沢溪谷はあちこちにオートキャンプ場があるが、今はひっそりしている。西丹沢自然教室の案内所でテント場を確認し、そこから川向かいのテント場に向かう。お婆さん一人で番をしている小屋前にテントを張り掛けたが、テントの倍余りの料金で素泊まりが出来る。又々軟弱に素泊まりすることにする。炊事は、吹きさらしの調理場だが、頼んで囲いのある軒下の休憩所を借りる。まだ夕方前だが、暖を取り一杯やる。

その内に、小屋のオーナーが絡む山岳会のメンバー4人が、凍てつく吹きさらしの調理場で薪を燃やしながらかつと飲んでいる。とてもじゃないけど、もうあのような元気はない。何時間飲んだか忘れたが、小屋に入り、別々の部屋で好きなだけ布団を被り寝る。

毎度同じく、目が覚めるともう大分明るくなっている。急いで朝食を済ませ、川向かいの駐車場に車を駐める。そこから暫く車道を歩くと今日の目的地、檜洞丸の登山口がある。少し勘違いし、登山口を行き過ぎロスしたので、結局登山開始は前2日と同じ7時45分位の出発となる。

少し暗い沢を歩き、右側の急な斜面を登ると、そこからは緩い登りの巻き道だ。歩き易いが、樹林帯の景色の見えないルートだ。ゴーラ沢を過ぎると、又急な登りが続く。

ここも樹林帯で景色は殆どが見えない。途中展望台と表示された場所があり、漸く富士山が見えてくる。が、伸びた木の枝が邪魔になりイマイチだ。

ここから箒沢からの分岐までが一番険しい登りとなる。この



(檜洞丸からの富士山)



(檜洞丸山頂)

辺りからは登山道も凍てつき、滑り易い。きつい登りではあるが、徐々に展望が開け、その雄大な景色が負担を和らげてくれる。最後に階段を登り切ると箒沢ルートとの分岐点だ。ここから檜洞丸頂上までは、展望の良く利くなだらかな登り道だ。富士山も綺麗で最高の気分だが、凍てついた木道が続き、用心深く歩く。風も余り強くなく、快適な道を15分程行くと頂上だ。

広いなだらかな頂上は樹林帯の中にあるが、今は完全に落葉しているため、枝の隙間から富士山や丹沢、伊豆方面もよく見える。遠くに相模湾も見える。端の方へ行くと富士山も綺麗に見える。3日間富士山を見続けているが、雪の頂いた天気の良い日の姿は本当に綺麗だ。飽きずに眺めていたが、時間もあり、仕方無く下山。快適なピッチで下り、時間的にも余裕があり、近くの温泉に浸かる。帰りの道路も渋滞に巻き込まれることなく、大満足の富士山ツアーだった。

<参考タイム>

(12/5) 7:45 十里木高原登山口 → 9:10 越前岳山頂 (9:35発) → 10:45 登山口

(12/6) 7:45 三ツ峠登山口 → 8:50 尾根出合 → 9:50 展望台 (10:30発) → 10:35

黒岳山頂 → 11:18 旧御坂峠 → 12:08 三ツ峠登山口

(12/7) 7:25 西丹沢自然教室 → 7:45 登山口標識 → 8:25 ゴーラ沢出合 → 9:10

展望台 → 10:10 箒沢ルート出合 → 10:25 檜洞丸山頂 (10:55発) → 12:10

ゴーラ沢出合 → 12:40 登山口 → 12:50 西丹沢自然教室